

発がん性の評価区分のある有機溶剤の作業環境測定状況

測定対象物質名	主な物性 〔上段：沸点 下段：蒸気圧〕		測定事業場数	延単位作業場数	管理区分別の単位作業場所延数							
					第1管理区分		第2管理区分		第3管理区分		第2又は第3管理区分	
					件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
クロロホルム	62℃ 21.2kPa(20℃)	17年度調査	533	1753	1715	97.8	20	1.1	18	1.0	38	2.2
		18年度調査	505	1649	1594	96.7	29	1.8	26	1.6	55	3.3
四塩化炭素	76.5℃ 12.2kPa(20℃)	17年度調査	65	182	176	96.7	5	2.7	1	0.5	6	3.3
		18年度調査	52	82	81	98.8	0	0.0	1	1.2	1	1.2
1,4-ジオキサン	101℃ 5.1kPa(25℃)	17年度調査	49	282	278	98.6	3	1.1	1	0.4	4	1.4
		18年度調査	53	166	158	95.2	3	1.8	5	3.0	8	4.8
1,2-ジクロロエタン (別名二塩化エチレン)	83.5℃ 10.5kPa(25℃)	17年度調査	44	119	107	89.9	9	7.6	3	2.5	12	10.1
		18年度調査	54	94	83	88.3	7	7.4	4	4.3	11	11.7
ジクロルメタン (別名二塩化メチレン)	40℃ 47.4kPa(20℃)	17年度調査	1355	2765	2402	86.9	232	8.4	131	4.7	363	13.1
		18年度調査	1347	2787	2152	77.2	349	12.5	286	10.3	635	22.8
スチレン	145℃ 0.7kPa(20℃)	17年度調査	433	1191	1122	94.2	50	4.2	19	1.6	69	5.8
		18年度調査	411	1098	948	86.3	94	8.6	56	5.1	150	13.7
1,1,2,2-テトラクロロエタン (別名四塩化アセチレン)	146.5℃ 0.6kPa(25℃)	17年度調査	16	30	30	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
		18年度調査	39	55	54	98.2	1	1.8	0	0.0	1	1.8
テトラクロロエチレン (別名パークロロエチレン)	121℃ 2.5kPa(25℃)	17年度調査	353	523	488	93.3	26	5.0	9	1.7	35	6.7
		18年度調査	332	480	448	93.3	27	5.6	5	1.0	32	6.7
トリクロロエチレン	87℃ 7.8kPa(20℃)	17年度調査	1270	1886	1537	81.5	237	12.6	112	5.9	349	18.5
		18年度調査	1033	1723	1219	70.7	288	16.7	216	12.5	504	29.3
メチルイソブチルケトン	117～118℃ 2.1kPa(20℃)	17年度調査	255	623	592	95.0	18	2.9	13	2.1	31	5.0
		18年度調査	328	646	629	97.4	16	2.5	1	0.2	17	2.6

○第一管理区分 当該単位作業場所のほとんど(95%以上)の場所で気中有害物質の濃度の平均が管理濃度を超えない状態。(B測定にあつては管理濃度未満の状態)

○第二管理区分 当該単位作業場所の気中有害物質の濃度の平均が管理濃度を超えない状態。(B測定にあつては管理濃度超え、管理濃度の1.5倍以下の状態)

○第三管理区分 当該単位作業場所の気中有害物質の濃度の平均が管理濃度を超える状態。(B測定にあつては管理濃度の1.5倍超えの状態)

※平成17, 18年度統一精度管理事業調査結果より抜粋

※作業環境測定の対象作業場は、令別表第6の2に掲げる有機溶剤を製造し、又は取り扱う業務で厚生労働省令で定めるもの(令別表第6の2第1号から第47号までに掲げる有機溶剤に係る有機溶剤業務のうち、第3条第1項の場合における同項の業務以外の業務)を行う屋内作業場